

分野別目標総括シート

分野別目標5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている

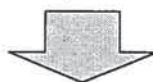
〈めざす姿〉

○海をはじめとする自然、歴史、文化、食、スポーツ、商業施設などの多彩な資源が磨きあげられ、回遊性の高さやおもてなしなどにより、アジアの交流拠点として、世界中から人々が集まっています。また、福岡都市圏や九州各都市と連携し、魅力向上に向けた取組みや戦略的なプロモーションにより、九州全体の集客力が高まっています。

○都心に近い大濠公園、舞鶴公園一帯が、市民の憩いの場としての機能と、歴史、文化、観光の発信拠点としての機能を兼ね備えており、都市の顔として、その魅力の向上に重要な役割を果たしています。

○MICEの拠点都市や国際スポーツ大会の開催都市として国際的に認知されています。

施策		施策の 進捗状況	成果指標	
			指標の項目	達成状況
5-1	観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ	—	入込観光客数（日帰り）	—
			入込観光客数（宿泊）	—
5-2	緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり	—	過去3年間に福岡城跡（舞鶴公園）に行ったことがある市民の割合	—
5-3	情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり	—	観光案内ボランティアの案内人数	—
			観光情報サイトのアクセス数	—
5-4	交流がビジネスを生むMICE拠点の形成	—	国際コンベンション開催件数	—
			国内コンベンション誘致件数	—
5-5	国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興	—	福岡市を活動拠点とするプロスポーツチームなどの主催試合観客数	—
			スポーツ観戦の機会への評価	—
5-6	国内外への戦略的なプロモーションの推進	—	福岡市への外国人来訪者数	—
			外航クルーズ客船の寄港回数	—



「施策の進捗状況」、「成果指標の達成状況」の欄は、来年度以降の施策評価から記載することとしています。

施策評価シート

分野別目標	5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策	5-1	観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ		
施策の方向性	<p>福岡市が有する歴史文化資源を市民の財産として保存・整備し、アジアとの交流や祭り、コンサートや観劇、展覧会などのさまざまなイベント、美しい街並み、商業施設、食文化や自然環境などと共に、福岡市の貴重な観光資源として、誰もが親しみやすいストーリー性を付加しながら磨き上げるなど、官民一体となった集客戦略を推進します。</p> <p>また、福岡都市圏や九州各都市と連携し、それぞれがもつ特色ある観光資源を合わせ、エリアとしての魅力向上を図ります。</p>			
施策主管局	経済観光文化局	関連局	農林水産局、住宅都市局	

《施策事業の体系》 ★：新規事業 ◆：区事業 / 太字：重点事業 その他：主要事業

(施策5-1) 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ

●福岡の歴史資源の観光活用

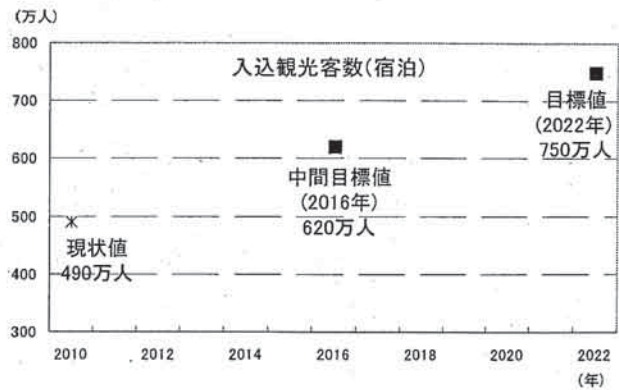
- 日本で唯一の歴史資源活性化事業(鴻臚館・福岡城、元寇防塁、志賀島等)
- 鴻臚館・福岡城の整備[鴻臚館跡整備基本構想事業、福岡城跡整備基本計画事業、福岡城集客機能検討]
- ★黒田官兵衛プロジェクト
- 吉武高木遺跡環境整備事業
- 庚寅銘大刀保存活用事業
- ◆博多ライトアップウォークの推進<再掲:博多区>
- ◆地域密着型の集客・まちづくり<再掲:博多区>
- ◆中央区歴史・文化を生かしたまちづくり推進事業<再掲:中央区>

●祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ

- アジアン・パーティ
[クリエイティブフェスタ<再掲7-3>、アジアフォーカス・福岡国際映画祭<再掲7-3>、アジア太平洋フェスティバル、福岡アジア文化賞<再掲8-6>]
- 農水産物のブランド化の推進
[「ふくおかさん家(産地)のお気に入り」事業、★水産物ブランド化・流通対策事業、★一次製品のアンテナショップ等検討(一次産品海外マーケティング拠点施設検討事業)、★カキ養殖新技術推進事業]<再掲6-4>
- 福岡で「もう1泊」推進事業、夜の観光資源魅力強化事業
- 山笠魅力発信事業
- 動植物園再生事業<再掲4-4>
- 美術館大規模改修・リニューアル事業<再掲1-4>
- ★博物館の歴史・文化観光拠点化事業
- 特色ある公園づくり事業(友泉亭、金印公園、海の中道海浜公園)
<再掲4-4>
- ◆さわら魅力アップ事業(★サザエさん通りを生かしたまちづくり、さわらの秋等)
<再掲:早良区>

《成果指標》

指標項目	現状値	中間目標値	目標値
		2016(平成28)年度	2022(平成34)年度
入込観光客数(日帰り)	1,152万人 (2010年)	1,200万人	1,250万人
入込観光客数(宿泊)	490万人 (2010年)	620万人	750万人



※成果指標の実績値は、来年度以降に記載します。

1 主な課題等 ※来年度からこの欄には、成果指標や事業の進捗状況等を踏まえて「施策の評価」を記載します。

＜観光産業振興の取組み＞

・少子高齢化が進展し、世界規模での都市間競争が激しさを増す中、福岡市の発展と成長を図るには、国内外との交流による経済活性化が必要。特に、観光産業は、裾野が広く、市民の9割が従事する第3次産業への波及効果も高いなど、福岡市の特性にあった産業である。

※観光客の消費金額 3, 213 億円、経済波及効果 4, 680 億円。3. 3 万人の雇用、51. 2 億円の税収が発生 (H22 推計値)

・福岡市では、H24n を観光元年と位置づけて、福岡オープントップバスの運行など取組みを強化。H25. 3月「福岡観光・集客戦略 2013」策定、さらに戦略的に取組みを進める。

※目標： 観光客数 H22 : 1, 642 万人 → H34 : 2, 000 万人

観光客による直接消費額 1, 700 億円増

・H23 の入込観光客数は、東日本大震災の影響、九州新幹線の全線開通もあり、全体としては 1, 678 万人 (前年比 2. 2% 増)。うち日帰り観光客数は 1, 168 万人 (前年比 1. 4% 増)、宿泊観光客数は 510 万人 (前年比 4. 1% 増)。

・外国人入国者数は、H23 は東日本大震災等の影響を受け減少 (H22 : 76. 1 万人 → H23 : 58. 7 万人)。H24 は過去最高の 76. 7 万人となった。

●福岡の歴史資源の観光活用

・金印や福岡城・鴻臚館、元寇防塁など福岡にしかない歴史・文化資源が、観光資源として十分に活用されていない。

＜取組状況等＞

・福岡城・鴻臚館については、導線やサインで課題があるほか、石垣や建物が樹木で見えず活かされていない状況。また、デジタル回遊ツアーは、利用者の評価は概ね良好だが平日の利用者増への取組みなどが必要である。

・志賀島については、食資源や景色・景観、歴史資源を活かした集客促進を図る必要がある。

・防塁 (今津、生の松原) については、交通アクセスや回遊性、魅力発信などを検討する必要がある。

・H25. 4月、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映決定を契機に、福岡の歴史・文化資源を再発見し、まち全体を盛り上げる必要がある。

●祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ

・山笠・どんたくに代表される祭り、アジア太平洋フェスティバル・アジアフォーカス福岡国際映画祭やミュージックシティ天神などのイベント、また、魚介類・博多ラーメン・もつ鍋・水炊き・屋台など「食」の魅力、さらに、文化・スポーツ・エンターテインメントなど、豊かな魅力を持っているが、来福客に十分に伝わっていない。

＜取組状況等＞

- ・福岡が持つ観光資源について、「もう一泊」してもらえ魅力アップを図る必要がある。特に「食」や「夜のにぎわい」は十分には活用されておらず、H24nには「食」のPRイベント開催やガイドブックの製作に取り組んだ。
- ・博物館、美術館の設備更新、リニューアルにあたっては、新たな賑わいの場としての機能強化を図る必要がある。
- ・動植物園再整備については、計画的推進とともに、より魅力的な施設となるよう取り組む必要がある。
- ・農畜水産物の新製品開発、ブランド化に取り組んでおり、特に、唐泊のカキは全国コンテストで2位となるなど、一定の成果を上げているが、さらなる観光資源としての取組み強化が必要である。

※施策を構成する事業の実施状況は、別紙「事業一覧」のとおりです。

2 今後の取組みの方向性

●福岡の歴史資源の観光活用

- ・福岡城・鴻臚館については、福岡城跡整備基本計画（～H25n）・鴻臚館整備基本構想（～H26n）を策定、復元・整備に向けて検討を進めるほか、デジタル技術を活用したバーチャル回遊システムなどのソフト面、観光利便施設や駐車場等のハード面から歴史文化資源の磨き上げを図り、集客力を高める。また、博物館や美術館等の市内に点在する関連施設と連携して、回遊の促進に取り組む。
- ・志賀島については、ニーズ調査の結果、「食」に対する関心が高いことが確認されており、グルメ開発による集客促進に取り組むとともに、景色・景観や歴史資源の情報発信に取り組む。
- ・元寇防塁については、案内表示によるアクセス向上、点在する防塁を巡る回遊性の向上などに取り組む。
- ・NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映決定を契機として、プロモーション活動に取り組む。

●祭り・食・文化・エンターテイメント魅力の磨き上げ

- ・福岡の「夜の観光」に魅力を感じ、実際に訪れ、福岡での夜の回遊や宿泊につながるように、夜のイベントや夜景スポットなど、福岡の夜の魅力の情報発信に取り組む。
- ・屋台については、H25.6月に制定された屋台条例に基づき、適正化を踏まえた上で、まちのにぎわい、観光資源としての活用を図る。
- ・アジア太平洋フェスティバルについては、「アジアを知る」をコンセプトとした「アジアマンス」から「アジアと創る」をコンセプトとする「アジアンパーティ」へのリニューアルに伴い、音楽やファッションなど若者向けの企画を行い、アジアの新しい魅力を展開する。
- ・唐泊カキについては、養殖新技術の推進を図るとともに、ブランド化・販路拡大に取り組む。
- ・博物館については、常設展示室のリニューアルオープンとともに、新たなモバイル情報コンテンツによる魅力発信を行うなど、観光・集客の拠点づくりを進める。
- ・美術館は、大規模改修に際し、カフェ、ミュージアムショップを設置するなど新たな賑わいの場として整備を図る。

事業一覧

分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている	
施策	5-1 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ	
事業名 (太字は重点事業、細字は主要事業)	H25n予算額 単位：千円	H24n実施状況
所管課	H24n事業費 単位：千円	
日本で唯一の歴史資源活性化事業	32,644	【鴻臚館、福岡城】・福岡城むかし探訪館の開設及び運営と、福岡城むかし探訪館を回遊拠点に集客向上のためのイベントを実施。 ・CG等を活用して携帯タブレット内に福岡城や鴻臚館を復元し、当時の情景を体感しながらエリアを回遊するシステムを構築。
経済観光文化局観光コンベンション部観光戦略課	60,730	【元寇防塁】・元寇防塁を活かした回遊性向上の仕組みを検討し、来年度以降の取り組みの実施計画を策定。 【志賀島】・地元関係者と共に、食や景色・景観、歴史資源を活かした集客促進策について検討し、来年度以降の取り組みの実施計画を策定。
鴻臚館・福岡城の整備①（鴻臚館跡整備基本構想事業）	6,709	鴻臚館跡整備のための基礎調査を行った。基礎調査の内容については、学識経験者からなる「鴻臚館跡調査研究指導委員会」において、意見交換等を行った。
経済観光文化局大規模史跡整備推進課	2,801	
鴻臚館・福岡城の整備②（福岡城跡整備基本計画事業）	7,726	福岡城跡整備基本計画の原案を作成した。（※ただし、完成はH25n。）原案の検討に際しては、学識経験者等からなる「福岡城跡整備基本計画検討委員会」を開催し、意見交換等を行った。
経済観光文化局大規模史跡整備推進課	6,608	
吉武高木遺跡環境整備事業	58,262	早期整備27,000㎡のうち、第1期工区（芝生広場・多目的広場：7,000㎡）の実施設計を行い、工事に着手した。また、第2期工区（中央広場：13,000㎡）・第3期工区（遺構ゾーンB：7,000㎡）にかかる整備の基本設計に着手した。 また、地元とも整備活用に関する協議を行うとともに、有識者による吉武高木遺跡整備指導委員会を開催し、整備について指導・助言を仰いでいる。
経済観光文化局文化財保護課	74,060	
アジア太平洋フェスティバル福岡	75,897	アジア太平洋の魅力を一堂に集め、市民と観光客が気軽に参加し、アジア太平洋に親しむことができる「都市型のまつり」を開催し、観光プロモーションの場としても集客を図る。 ①アジア太平洋ステージ 伝統芸能公演やポップカルチャーなど ②アジア太平洋屋台 アジア太平洋各国・地域の名物料理などを販売 ③アジア太平洋プラザ アジア太平洋・各国・地域の特産物販売 ④アジア太平洋観光プロモーション アジア太平洋各国の政府観光機関の協力により、フェスティバル会場内に観光ブースを展示
経済観光文化局観光コンベンション部観光振興課	65,000	
福岡で「もう1泊」推進事業	13,670	○食の魅力発信（VI推進協事業） 街頭でのDVD放映やポスター掲出、観光ガイドブックの制作など、食のプロモーションを展開。 ①祭りにおける食のPRイベント ・どんたく弁当「博多のおもてなし」広報 ポスター30枚、掛紙3,000枚 ・観光ガイドブック「山笠×味めぐり」制作 30,000部 ②関東・関西・九州の主要交通機関等でのポスター掲示 約30箇所 ③ガイドブック「HAPPY!福岡味」の制作・配布 約300箇所 10万部 ○ライトアップ社会実験 第19回ゴールデンオールディーズ・ワールドラグビーフェスティバル福岡パーティー会場でのデジタル掛け軸の実施
経済観光文化局観光コンベンション部都市観光推進課	16,687	

施策評価シート

分野別目標	5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策	5-2	緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり		
施策の方向性	都心に近い貴重な緑地空間として広く市民に親しまれている大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用を図り、市民の憩いと集客の拠点づくりを進めます。特に舞鶴公園については、歴史文化資源である「鴻臚館跡」、「福岡城跡」の二つの国史跡を活用した整備を進めます。			
施策主管局	住宅都市局	関連局	農林水産局、経済観光文化局	

《施策事業の体系》

★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

(施策5-2) 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり

●市民の憩いと集客の拠点づくり(大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等)

★セントラルパーク構想推進事業

鴻臚館・福岡城の整備(鴻臚館跡整備基本構想事業、福岡城跡整備基本計画事業、福岡城集客機能検討) <再掲5-1>

《成果指標》

指標項目	現状値	中間目標値	目標値
		2016(平成28)年度	2022(平成34)年度
過去3年間に福岡城跡(舞鶴公園)に行ったことがある市民の割合	47.9% (2011年度)	55%	60%



※成果指標の実績値は、来年度以降に記載します。

1 主な課題等 ※来年度からこの欄には、成果指標や事業の進捗状況等を踏まえて「施策の評価」を記載します。

●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

- ・H3の「舞鶴城址将来構想」（中間とりまとめ）策定から20年以上が経過し、城内施設（舞鶴中学校、裁判所、城内住宅）の移転が進むとともに、鴻臚館の全容が明らかになりつつある。
 - *城内住宅移転の進捗率：約71%（H24n末）
 - *鴻臚館の史跡指定エリアの発掘調査は、H25nに完了予定
- ・舞鶴公園は鴻臚館・福岡城と二重の国史跡指定を受けている貴重な場所であり、観光地としての活用も踏まえながら、復元整備に向けて検討を進めている。
 - *福岡城跡整備基本計画（H24n～H25n）、鴻臚館跡整備基本構想（H25n～H26n）を策定中
- ・このような状況を踏まえ、大濠公園（県管理）と舞鶴公園（市管理）の一体的利用を図るため、県と共に「セントラルパーク構想委員会」を設置、H25n中に構想の策定を予定。

※施策を構成する事業の実施状況は、別紙「事業一覧」のとおりです。

2 今後の取組みの方向性

●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

- ・H25n中に、セントラルパーク構想を策定し、大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用を図り、市民の憩いの空間づくり、観光・集客の拠点づくりをめざす。
- ・福岡城跡整備基本計画（～H25n）、鴻臚館跡整備基本構想（～H26n）を策定し、歴史的建造物の復元や公開を行うなど、整備・活用を進める。
- ・城内施設の城外移転を進めるとともに、H25n中の完了をめざして、鴻臚館の発掘調査を進める。

施策評価シート

分野別目標	5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策	5-3	情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり		
施策の方向性	おもてなしの心を醸成するための市民参加事業や啓発事業、観光ボランティアの充実などにより、市民一人ひとりが誇りと自覚をもてる観光都市福岡づくりを進めます。また、交通便利性の向上やユニバーサルデザインの普及などにより、快適にまちめぐりができ、外国人を含め多くの人が何度でも行ってみたいと感じる環境づくりをめざします。			
施策主管局	経済観光文化局	関連局	市長室、住宅都市局、道路下水道局	

《施策事業の体系》

★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

(施策5-3) 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり

- **おもてなしの向上**
 - まち歩き観光ガイド・史跡めぐりの充実強化
 - ★観光客にやさしいまちづくり事業
 - 都心のまちづくりの推進(都心のエリアマネジメントの推進) <再掲4-6>
 - 外国人向け観光情報サイトの機能強化
 - 公衆無線LAN環境整備
 - ◆おもてなしの人材活用事業 <再掲:博多区>
- **交通便利性や都心回遊性の向上**
 - ★快適で高質な都心回遊空間の創出事業(にぎわい創出空間検討等)
 - 来訪者をもてなす道づくり(都市サインの整備、道路緑化等)
 - ★都心部観光バス対策事業 <再掲8-1>
 - ◆都心部まちめぐり推進事業 <再掲:中央区>

《成果指標》

指標項目	現状値	中間目標値	目標値
		2016(平成28)年度	2022(平成34)年度
観光案内ボランティアの案内人数	6,940人 (2011年度)	11,000人	15,000人
観光情報サイトのアクセス数 (観光情報サイト「よかなび」の月間PV(ページビュー))	608万PV (2012年6月～9月平均)	730万PV (2016年6月～9月平均)	910万PV

(人)



(万PV)



※成果指標の実績値は、来年度以降に記載します。

1 主な課題等 ※来年度からこの欄には、成果指標や事業の進捗状況等を踏まえて「施策の評価」を記載します。

●おもてなしの向上

・H25. 3月「福岡観光・集客戦略2013」策定し、「世界No.1のおもてなし都市」をめざし、さらに戦略的に取組みを進めることとした。

・外国人旅行者が日本旅行中に不満を感じる主なことは言葉が通じないことであり、特に案内所、宿泊施設、交通機関、飲食施設等において、外国人来福客の受け入れ環境整備を図る必要がある。

・観光案内ボランティアは増加しているが、観光案内に対する需要も大きく伸びている。また、外国語での案内を希望する観光客に対応できない状況である。

*観光案内ボランティア：H19n：60人→H24n：96人

*観光案内ボランティアによる案内人数：H19n：3,303人→H24n：8,803人

・外国人旅行者が旅行中に困ったことは「無料公衆無線LAN環境」が36.7%と最多である。(H23観光庁調べ)

・H24. 4月、無料公衆無線LANサービス「Fukuoka City Wi-Fi」の提供を開始。地下鉄や福岡空港、博多港などの交通拠点、福岡タワーなどの観光拠点、市内宿泊施設など計51拠点(アクセスポイント数197か所)にてサービスを提供(H25. 3月末)

●交通利便性や都心回遊性の向上

・業務・商業機能が集積する天神・渡辺通地区、H23年春の九州新幹線の全線開通や駅ビル開業により賑わいを増した博多駅周辺地区、近年のクルーズ船の寄港増に対応して受け入れ環境整備を進めるウォーターフロント地区など都心部の「核の形成」により、九州・アジアとの交流が活発になり、国内外からの来街者は増加傾向にある。また、「博多千年門」整備の取組みなど、歴史文化資源を活かしたまちづくりの進展も見られる。

・今後は、各地区相互の連携により、歩いて楽しく快適にまち巡りができ、都心部全体の活力が向上するよう、時機を逸することなく重点的かつ戦略的に回遊性の向上に取り組むことが必要である。一方で、幹線道路ネットワークが形成されつつあるなか、都心部では依然として交通渋滞が課題となっており、新たな交通ネットワークの形成が重要となっている。

・都心部には、施設案内や道路標示など様々なサインが、統一感無くあふれており、デザインの統一や多言語標記などの環境整備を進める必要がある。

・観光客の誘致促進のためには、観光者等の受け入れ環境を整備することが必要であり、特に都心部においては、観光バスの受け入れ環境の整備が急務となっている。

※施策を構成する事業の実施状況は、別紙「事業一覧」のとおりです。

2 今後の取組みの方向性

●おもてなしの向上

- ・市内主要交通拠点や宿泊・商業施設等の民間施設へ、公衆無線LAN環境の整備拡大を働きかける。
- ・観光案内ボランティアへの需要の増加や、外国語での案内希望に対して、ガイドの育成、多言語対応に取り組む。
- ・文化財について、スマートフォンを活用した文化財マップ等により、ルートの紹介やシステムの利用促進を図る。

●交通利便性や都心回遊性の向上

- ・都心部の各地区の動きを捉えながら、各地区を相互に結ぶ回遊空間において、花・緑、水辺、歴史、景観などの既存資源を活かし、快適で質の高い空間整備のコンセプトやデザインを策定し、その事業化を図る。
 - ・事業の実施にあたっては、地下鉄七隈線延伸（天神南～博多）、第2期展示場などの公共施設整備や、天神明治通り街づくり協議会によるビル建替えの取組みなど都心部の開発インパクトを捉えるとともに、地域まちづくりの機運の醸成、施設の維持改修の機会とも合わせて、戦略的に事業を推進する。
 - ・あわせてエリアマネジメント団体などと共働して、公共的空間の利活用を通じて、まちの魅力向上や賑わい創出に取り組む。
- ・都心部における観光バスの受け入れ環境を整備するため、乗降場の整備について具体的な検討を行う。

事業一覧

分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
施策	5-3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり

事業名 (太字は重点事業、細字は主要事業)	H25n予算額 単位：千円	H24n実施状況
所管課	H24n事業費 単位：千円	
まち歩き観光ガイド・史跡めぐりの充実強化①(観光案内ボランティアの充実強化)	7,871	<ul style="list-style-type: none"> ○本市で開催される大会・学会や祭り等の参加者や、見物者に対する案内 ○派遣依頼に伴う観光案内活動 ○博多町家ふるさと館の館内や周辺寺院等の案内
経済観光文化局観光コンベンション部 観光振興課	5,321	<ul style="list-style-type: none"> ○博多情緒めぐりキャンペーンの「ガイドと街歩き」事業での案内 ○H24.3月より、市役所ロビーに2名、町家ふるさと館前に1名を12.28～1.3を除く毎日常駐。観光案内、定時ツアーを行っている
まち歩き観光ガイド・史跡めぐりの充実強化②(歴史・文化遺産まち歩き)	8,000	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財を巡るまち歩きルートの検討を行い、時代毎にテーマを設け、テーマに合致した地域を選ぶことで、13のルートを選定。 ○選定した地域の文化財を巡るルートに沿って、文化財を案内、紹介するスマートフォンアプリ(ガイダンスシステム)を製作。初年度は集客が多い博多部で、中世博多の繁栄に関わる文化財を中心に巡るルートを対象として製作に着手。
経済観光文化局文化財部文化財保護課	9,442	<ul style="list-style-type: none"> ○業者の選定にあたっては、より魅力的なシステムとするため、提案協議により実施。 ○また、経済観光文化局としての特性を活かし、コンテンツ振興課の協力を得て、システム内において知名度の高いキャラクターを使用。
外国人向け観光情報サイトの機能強化	2,430	<ul style="list-style-type: none"> ○日本語版、韓国語版のアプリの機能拡充(交通案内機能、サポートコンテンツ) ○インターネットサイト掲載写真の高画質化、動画ページの改修
経済観光文化局観光コンベンション部 観光振興課	12,000	
公衆無線LAN環境整備	13,470	<ul style="list-style-type: none"> ○無料公衆無線LAN環境整備 H24.4.27に無料公衆無線LANサービス“Fukuoka City Wi-Fi”提供開始。 H25.3月末時点で地下鉄や福岡空港、博多港などの交通拠点、福岡タワーなどの観光拠点、市内宿泊施設など計51拠点(アクセスポイント数197か所)にてサービスを提供。 ○PR及び効果測定 主要拠点において、観光客や市民等に対しチラシ配布によるPR及び街頭アンケートによる効果測定を実施。
市長室広報戦略室広報課	32,135	
来訪者をもてなす道づくり	226,000	<ul style="list-style-type: none"> ○都市サインの新設・更新:7基新設 ○歴史に配慮した道路整備(承天寺周辺道路の高質空間整備) ○道路の新設改良に合わせた街路樹の整備 ○官民共同による花壇づくりの支援(道路空間の開放【主管:住都局】)
道路下水道局計画部道路計画課	29,549	

施策評価シート

分野別目標	5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策	5-4	交流がビジネスを生むMICE拠点の形成		
施策の方向性	<p>福岡都市圏内の大学、会議場、ホテルなどと連携しながら、会議、展示、飲食、宿泊などのMICEを支える多様な要素が一体として機能するよう、MICEの拠点機能を高めます。</p> <p>また、ウォーターフロントに集積するコンベンション機能を強化するため、新たな展示場の整備や天神・博多駅との回遊性向上を進めます。</p> <p>さらに、助成金やおもてなし事業による開催支援や地元企業とのマッチング支援などにより、リピーターの確保や新たなビジネスの創出など、地元経済への波及効果を高めます。</p>			
施策主管局	経済観光文化局	関連局	総務企画局、住宅都市局、港湾局	

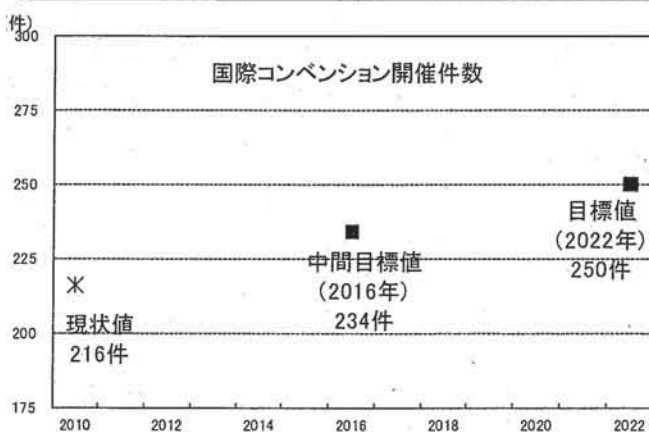
《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

(施策5-4) 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成

- MICE機能の強化
 - コンベンション機能強化の検討
 - 都心部とウォーターフロントとの交通アクセス強化の検討<再掲4-5>
 - 産学官民連携による国際競争力強化事業<再掲6-1>
 - 中央ふ頭整備事業(にぎわいづくり、回遊性向上、景観整備等)<再掲8-1>
- MICE誘致の推進
 - MICE誘致推進事業
 - MICE開催支援事業

《成果指標》

指標項目	現状値	中間目標値	目標値
		2016(平成28)年度	2022(平成34)年度
国際コンベンション開催件数	216件 (2010年)	234件	250件
国内コンベンション誘致件数	138件 (2011年度)	148件	160件



※成果指標の実績値は、来年度以降に記載します。

1 主な課題等 ※来年度からこの欄には、成果指標や事業の進捗状況等を踏まえて「施策の評価」を記載します。

●MICE 機能の強化

- ・福岡市の国際会議開催件数は年間 221 件 (H23n)、3 年連続国内 2 位 (H21n~H23n)。うちアジア関連が 4 分の 1。
- ・「福岡観光・集客戦略」(H25.3 月)において、4 つの力点の 1 つに「MICE 振興」を掲げ、10 年後の目標として国際会議開催件数 250 回、国際会議世界ランク 50 位 (H24 :97 位) と設定している。
- ・産学官民連携組織である福岡地域戦略推進協議会 (FDC、H23 設立) において、MICE は都市の産業競争力に直結する経済インフラであるとして、MICE 戦略を策定し、MICE を基軸とした街づくりを進めることとしている。
- ・国内外の MICE 先進都市では、展示場、会議室、宿泊、宴会場などの MICE 関連施設と飲食店、休憩所等が一体的・機能的に配置された「オール・イン・ワン」の配置が実現しており、福岡市では、コンベンションゾーンにおける施設集積を活かして、国際競争力のある MICE 拠点として、機能強化を図ることとしている。
- ・既存の展示場 (マリンメッセ福岡・福岡国際センター) の稼働率はほぼ上限の 8 割を超え、年間 50 件程度利用を断るなど経済的な機会損失が発生。このため、ウォーターフロントエリアにおいて、新たな展示場の整備計画を検討。
- ・同地区は臨港地区 (商港区) に指定されており、分区条例に基づき土地利用を規制しているが、H25.6 月議会において、一般の商店、飲食店などの立地を可能とする条例改正を行い、民間活力受入のための条件整備を行ったところ。
- ・コンベンションゾーンの機能強化のため、参加者等が飲食や休憩など快適に過ごすことができる周辺環境整備が必要である。
- ・都心部 (ウォーターフロントエリア、天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区) は、特定都市再生緊急整備地域に指定されており (H24.1 月)、各地区の機能強化と相互の回遊性強化が重要となっている。

●MICE 誘致の推進

- ・H25n、(公財) 福岡観光コンベンションビューローが、MICE の国際機関である ICCA に加入した。
- ・国内会議の競争が激化しており、国際的競争力を備えた MICE 誘致に向けた戦略と組織体制が必要となっている。
- ・FDC において、MICE の誘致・受入のワンストップ体制づくりを進めることとしている。
- ・H25.6 月に国の「グローバル MICE 戦略都市」(全国 5 都市の一つ) に選定された。

※施策を構成する事業の実施状況は、別紙「事業一覧」のとおりです。

2 今後の取組みの方向性

●MICE 機能の強化

- ・ウォーターフロントエリアにおいて、展示場、会議室、宿泊、宴会場などの MICE 関連施設や飲食店等を一体的・機能的に配置し、利便性を高めることで、国際競争力のある MICE 拠点として機能強化を図る。
- ・コンベンションゾーンの機能強化を図るため、ウォーターフロントエリアにおいて第 2 期展示場の整備を推進するとともに、コンベンションを支援するホテルの誘致を行う。
- ・ウォーターフロントエリアにおいて、民間活力を導入した商店・飲食店などの立地等にぎわいづくりの取組みを進める。
- ・都心部とウォーターフロントの間のアクセス強化については、交通事業者や民間事業者などと連携し、効果的で定着可能な運行形態や誘導施策を検討・実施する。

●MICE 誘致の推進

- ・「グローバル MICE 戦略都市」として、国と共に国際競争力をもった MICE 誘致に向けて海外マーケティングを行い、戦略的な誘致を進める。また、誘致支援体制を強化するため、関連団体 (福岡観光コンベンションビューロー、コンベンションセンター、FDC 等) とともに、MICE ワンストップ機能の窓口の立ち上げに向け検討を行う。
- ・福岡市の強みである国際会議について、今後ますます展示場併設の会議が増えることから、展示会ニーズにも対応しながら大規模大会の誘致、これまでの実績と地理的優位性を活かし、アジア関連の会議・学会等の誘致を図る

事業一覧

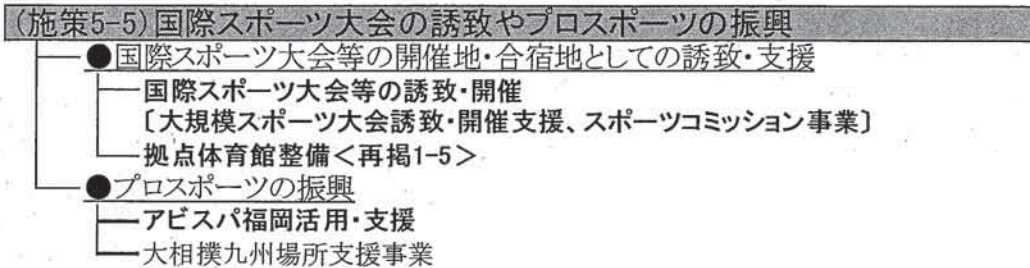
分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
施策	5-4 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成

事業名 (太字は重点事業、細字は主要事業)	H25n予算額 単位：千円	H24n実施状況
所管課	H24n事業費 単位：千円	
コンベンション機能強化の検討	15,000	第2期展示場整備に向けて、コンベンションゾーンでの整備のあり方を検討するとともに、以下の基礎調査を実施した。 ・福岡市内における中長期的なMICE機能の拡充の必要性調査 ・コンベンションゾーン内における現在及び将来の交通状況解析調査
経済観光文化局観光コンベンション部MICE推進課	9,834	
MICE誘致推進事業(MICE開催支援等推進事業)	79,749	(公財)福岡観光コンベンションビューロー(FCVB)や(一財)福岡コンベンションセンター(FCC)を通じ、様々なコンベンションの情報収集や誘致活動を実施した。 さらに、市、FCVB、FCCの3者による「コンベンション誘致促進会議」を設置し、3者協力により合同誘致を実施した。 また、FCVBを通して福岡市でのMICE開催者へ助成金を支給、主催者や参加者のニーズを踏まえた開催支援を実施した。 (実施内容：パナーなどによる歓迎演出、官民一体となった歓迎演出や語学サポート、交流事業を実施)
経済観光文化局観光コンベンション部MICE推進課	93,473	

施策評価シート

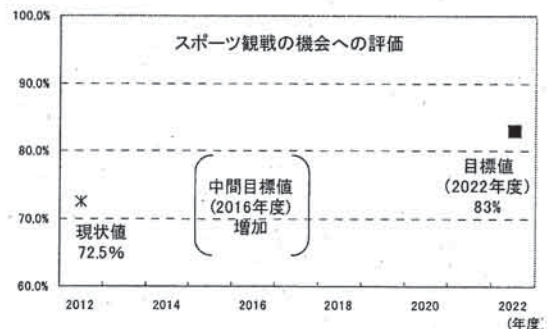
分野別目標	5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策	5-5	国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興		
施策の方向性	国際スポーツ大会や全国レベルの大会の開催地、合宿地としての誘致・支援を行うとともに、地元プロスポーツの振興を図ることなどにより、市民が一流のスポーツに触れ、交流できる機会を提供し、市民スポーツの振興を推進します。			
施策主管局	市民局	関連局	経済観光文化局	

《施策事業の体系》 ★：新規事業 ◆：区事業 / 太字：重点事業 その他：主要事業



《成果指標》

指標項目	現状値	中間目標値	目標値
		2016(平成28)年度	2022(平成34)年度
福岡市を活動拠点とするプロスポーツチームなどの主催試合観客数 (福岡ソフトバンクホークスを除く。)	29万8千人 (2011年度)	33万6千人	39万人
スポーツ観戦の機会への評価 (福岡市はスポーツ観戦の機会に恵まれた都市だと思ふ市民の割合)	72.5% (2012年度)	増加	83%



※成果指標の実績値は、来年度以降に記載します。

1 主な課題等 ※来年度からこの欄には、成果指標や事業の進捗状況等を踏まえて「施策の評価」を記載します。

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致・支援

- ・福岡市はユニバーシアード大会（H7）、世界水泳選手権大会（H13）、世界クロスカントリー選手権大会（H18）、ワールドカップバレーボール男子大会（H15、H19、H23）等の世界規模の大会を誘致・開催しており、H25.12月にはISUグランプリファイナル国際フィギュアスケート競技大会2013（国際スケート連盟主催）の開催を予定。
- ・H26.10月以降に市民参加型フルマラソン大会「福岡マラソン（仮称）」を福岡市と糸島市共同で開催する予定としており、その後も継続して開催することで福岡市の風物詩としての定着を図る必要がある。
- ・日本で開催される「ラグビーワールドカップ2019」について、H25.10月に試合開催会場選定ガイドラインが発表される予定であり、試合会場や合宿地としての誘致について検討する必要がある。
- ・体育館や屋外の競技場などの施設について、老朽化や、大規模な国際スポーツ大会の開催基準に満たないものがあることが課題となっている。

●プロスポーツの振興

- ・ソフトバンクホークス、アビスパ福岡に加え、J・アンクラス、ライジング福岡など多彩なプロスポーツチーム等が活動しているほか、大相撲九州場所の開催など、福岡市のスポーツ観戦環境は恵まれているが、歴史や知名度が低いチーム等はその活動が広く周知されていないという課題がある。
- ・アビスパ福岡については、J2降格により観客者数が半減（H23n→H24n）しているほか、地元企業からの支援が困難な状況になるなど、経営状況が悪化している。

※施策を構成する事業の実施状況は、別紙「事業一覧」のとおりです。

2 今後の取組みの方向性

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致・支援

- ・市民が一流のスポーツに触れる機会を創出し、また観光・集客資源として活かすため、各種競技団体や（公財）日本オリンピック委員会（JOC）との連携により、国際スポーツ大会等の情報収集に取り組むとともに、試合会場や合宿地としての誘致・支援を行う。
- ・大規模スポーツ大会に対応できる拠点体育館の整備を進める。

●プロスポーツの振興

- ・各プロスポーツへの関心や観客数の増加のため、継続した広報活動や市民へのスポーツ交流支援を行う。
- ・アビスパ福岡については、地域に根ざした市民球団として自立し、定着できるよう、自身の一層の自助努力を促すとともに、地域、企業等とも連携を図り支援していく。

事業一覧

分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
施策	5-5 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興

事業名 (太字は重点事業、細字は主要事業)	H25n予算額 単位：千円	H24n実施状況
所管課	H24n事業費 単位：千円	
国際スポーツ大会等の誘致・開催① (大規模スポーツ大会開催・誘致検討)	92,610	①市民参加型フルマラソン大会開催検討 関係機関・団体との協議 交通実態調査の実施(委託) 他都市大会調査の実施
市民局スポーツ推進部スポーツ事業課	16,047	
国際スポーツ大会等の誘致・開催② (国際スポーツ大会開催等経費)	0	H24nは補助対象となる国際スポーツ大会が無かったため、実績無し
市民局スポーツ推進部スポーツ事業課	0	
国際スポーツ大会等の誘致・開催③ (スポーツコミッション事業)	4,049	①国際スポーツ大会の開催支援 「アジア・ファイブネーションズ・カップ」(ラグビー)における試合会場(レベルファイブスタジアム)の確保 *日本代表VSアラブ首長国連邦 ②市民交流事業 「2012ゴールデンオールディーズ・ワールドラグビーフェスティバル福岡」における元日本代表選手と市民との交流 ・タグラグビー教室 2小学校・390人 ・子ども向けラグビークリニック 小学生300人
市民局スポーツ推進部スポーツ事業課	1,303	
アビスパ福岡活用・支援	87,755	①観戦招待事業(小中高生とその保護者をホームゲームに招待) ②少年少女サッカー教室(幼児,小中学生の団体を対象としたコーチによるサッカー指導) ③親子サッカー教室(小学生とその保護者を対象とした選手・コーチによる教室) ④心の教育プロジェクト(市内小学校での選手・コーチによる特別授業) ⑤アビスパ健康教室(およそ60歳以上を対象とした運動啓発教室) ⑥スポーツ大会等広告看板掲出(ホームゲーム時に掲出)
市民局スポーツ推進部スポーツ事業課	85,046	
大相撲九州場所支援事業	2,840	①福岡市内のビジョンによる広報 ②小学生相撲教室 ③観戦招待
市民局スポーツ推進部スポーツ事業課	2,826	

施策評価シート

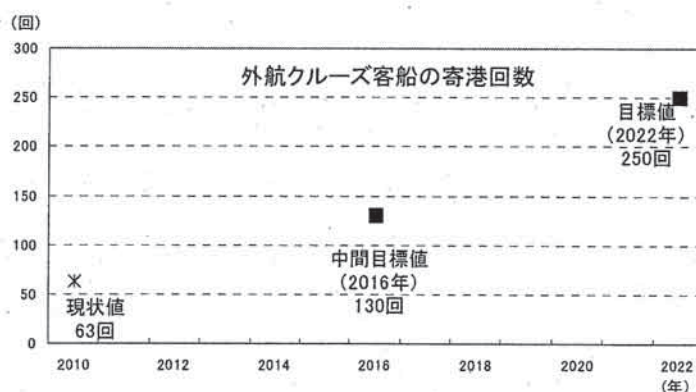
分野別目標	5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策	5-6	国内外への戦略的なプロモーションの推進		
施策の方向性	都市圏や九州の各都市、さらには釜山広域市と連携し、国内やアジアをはじめとする海外の有望市場に対し、メディア、インターネットなどを活用した効果的なプロモーションにより、クルーズ客を含め、国内外からの誘客に積極的に取り組み、多くの人をひきつけます。			
施策主管局	経済観光文化局	関連局	港湾局	

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

(施策5-6) 国内外への戦略的なプロモーションの推進	
●	シティプロモーション、ブランドイメージアップの推進
└	国内外観光プロモーション事業(欧州・アジア等)
└	フィルムコミッション事業<再掲7-3>
●	クルーズ客拡大への取組み
└	クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化
└	クルーズ客船に対するインセンティブ(港湾使用料の減免)
└	★全国クルーズ活性化会議

《成果指標》

指標項目	現状値	中間目標値	目標値
		2016(平成28)年(度)	2022(平成34)年(度)
福岡市への外国人来訪者数	85万人 (2010年)	150万人	250万人
外航クルーズ客船の寄港回数	63回 (2010年)	130回	250回



※成果指標の実績値は、来年度以降に記載します。

1 主な課題等 ※来年度からこの欄には、成果指標や事業の進捗状況等を踏まえて「施策の評価」を記載します。

●シティプロモーション、ブランドイメージアップの推進

- ・福岡市を訪れる国内からの観光客は、福岡県内、九州、中国地方が多数を占めており、国内人口の6割以上を占める3大都市圏（首都圏、中部圏、関西圏）からの観光客は全体の2割程度にとどまっている。
- ・外国人入国者数（福岡空港、博多港）は、76万7千人（H24）と過去最高となっている。
- ・外国人観光客の6割を韓国、中国で占めているが、特定の地域に集中しているため、観光客の動向が国際情勢による影響を受けやすい面がある。
- ・国内や東アジアを中心としてプロモーション活動を行ってきたが、H25.4月のアムステルダム直行便就航を契機として、欧州プロモーション活動を実施した。

●クルーズ客拡大への取組み

- ・海外船社による東アジアクルーズ市場開拓が進むにつれ、中国・韓国と近接する博多港のクルーズ寄港地としての需要が増大している。クルーズ客船寄港による経済効果は大きく、博多港の強みを生かした積極的な誘致活動が必要となっている。
- ・日中関係の影響から、H25の中国発着クルーズは激減する見込み。
*博多港におけるクルーズ客船寄港数の推移：
H19：15件 H20：35件 H21：42件 H22：84件 H23：55件 H24：112件 *H25（1月～7月実績）18件
- ・H24.11月、全国レベルでのクルーズ振興や港を通じた地域活性化を目的として、全国の港湾管理者等による「全国クルーズ活性化会議」が設立された。（会長：福岡市長、会員数：97（H25.7月時点））。

※施策を構成する事業の実施状況は、別紙「事業一覧」のとおりです。

2 今後の取組みの方向性

●シティプロモーション、ブランドイメージアップの推進

- ・国内では、人口集積地である三大都市圏、海外では、市場拡大が予想される韓国、中国、ビザ緩和が予定されているタイや台湾、香港、シンガポールを重点マーケットと位置づけ、さらに東南アジア諸国とヨーロッパを新たなマーケットと設定し、効果的なプロモーションを行い、新たな来福客を創出する。

●クルーズ客拡大への取組み

- ・外国船による日本人ターゲットのクルーズの実施などの新たな展開も踏まえ、引き続きクルーズ客船の積極的な誘致に取り組む。
- ・「九州アジア観光アイランド総合特区」（H25.2月認定）を活用した特区ガイドの養成支援等による外国語対応の充実や、快適に観光や買い物ができる環境づくりに取り組む。

事業一覧

分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
施策	5-6 国内外への戦略的なプロモーションの推進

事業名 (太字は重点事業、細字は主要事業)	H25n予算額 単位：千円	H24n実施状況
所管課	H24n事業費 単位：千円	
国内外観光プロモーション事業（欧州・アジア等）①（観光プロモーション事業）	21,942	各種観光協議会を通じ広域連携による事業を実施。 観光説明会の開催・ブース出展 広報・PRなどの事業
経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課	33,765	
国内外観光プロモーション事業（欧州・アジア等）②（九州縦断観光交流事業）	3,120	1.韓国釜山を中心とした観光PR事業 2.台湾からの映像等の広告媒体を担うメディア招請事業 3.中国上海からの旅行会社・マスコミ招へい事業(VJ事業) 4.上海観光雑誌「南国風」広告掲載
経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課	2,500	
国内外観光プロモーション事業（欧州・アジア等）③（アジア観光市場開拓事業）	20,000	中国向けPR事業の実施 ①有名webサイトへのニュースリリース発信 ②中国で発行されるファッション誌によるPR ③旅行サイトでのPR ④微博(中国版ツイッター)によるプロモーション ⑤中国日系企業を対象にしたPRイベント 外国映画・テレビドラマ等の撮影に係る支援及びロケ地誘致事業の実施
経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課	19,964	
クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化①（外国クルーズ客船受入事業）	41,632	(1)着岸場所(岸壁・博多港国際ターミナル)での対応 ①入国管理局、警察等との連絡調整 ②記念セレモニー、船内見学会、歓迎のぼりや歓迎横断幕の掲出、岸壁での歓迎・見送り演出の実施 ③ウェルカムゲートの設置、英中韓対応の語学ボランティアによる観光案内の実施等 (2)天神地区、買い物時の受け入れ体制等の整備 ①観光バスの天神地区乗り入れの受入協力 ②天神地区商業施設と連携した受入体制(外国語対応等)の充実強化等 ③天神観光案内所等にウェルカムサポーター(語学ボランティア)配置
経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課	39,486	
クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化②（クルーズ客船誘致事業）（調査振興費）	21,744	①クルーズ客船誘致活動 海外船社(東アジアオフィス)、国内クルーズ関係企業等訪問、寄港誘致海外クルーズコンベンションに参加し、博多港PR ②クルーズ客船受入体制の充実 博多港国際ターミナル～客船着岸岸壁のアクセス改善等、港エリアでの受入体制強化 ③博多港発着クルーズ振興 市民クルーズ、市民船内見学会等実施による博多港発着クルーズPR
港湾局港湾振興部振興課	11,435	
クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化③（クルーズ客船誘致事業）（機能施設維持管理経費）	0	
港湾局港湾振興部振興課	7,207	
クルーズ客船に対するインセンティブ（港湾使用料の減免）	0	外国クルーズ客船について ・入港料 50%減免 ・岸壁使用料 総トン数に応じて減免
港湾局港湾振興部振興課	0	